

(独)住宅金融支援機構 理事長賞

タイトル 能登地震からの復興と
快適リノベーション

タイプ 持家一戸建

構造 在来木造

所在地	石川県七尾市
築後年数	98年
施工期間	4ヶ月間
該当工事面積	324 m ²
総工事床面積	406.7 m ²
該当部分工事費	2,762万円
総工事費	3,263万円
居住者構成	15歳以上65歳未満:2人 65歳以上:1人
設計会社	(株)高屋設計 環境デザインルーム 担当者:高屋 利行
施工会社	(有)坂口総合建材 担当者:坂口 覚一



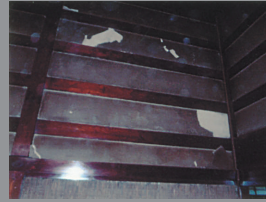
外壁の修復後



改修前家事室



改修前外壁



地震で傷んだ壁



クローゼット、家事室、台所を一つのLDK空間に広げた



B.ハイサイドライトにより明るくなった土間空間

<リフォームの動機／設計・施工の工夫点／施主の感想・満足度／住宅の価値を向上させた内容など>

今回リフォームした室木家は、国指定の有形登録文化財であり、口能登地方の歴史を伝える貴重な能登民家です。しかし2007年3月の能登半島地震により、この家にも被害が及びました。又、大正元年に建てられたヒロマ形式の座敷と2つの蔵に挟まれた生活空間である土間、台所等の水廻りは暗く、改修が以前から望まれていました。そこで、伝統的な能登民家の形式を保ちつつ、快適な住まいづくりと地震修復を兼ねた再生を行いました。

A. 2つの蔵と台所に挟まれた小さな隙間空間を開放的にすることで光と風が差し込む中庭空間を創出しました。

B. そして、あんどん部屋の家事室をリビングに転用し、無窓の土間へも光を差し込むように工夫しました。環境の時代、我々の使命は住み続ける為のリノベーション(性能を良くするリフォーム)だと考えます。

施主からの感想

「能登は冬の寒さが厳しく、古い建物という事もあって、石油ストーブを各室に置いていましたが、快適な改修が出来て給油の日々から開放されました。先祖からの建物を残すことも出来、満足しています。」

●性能向上の特性

断熱性能の向上と自然採光利用による居室配置

●特に配慮した住宅性能

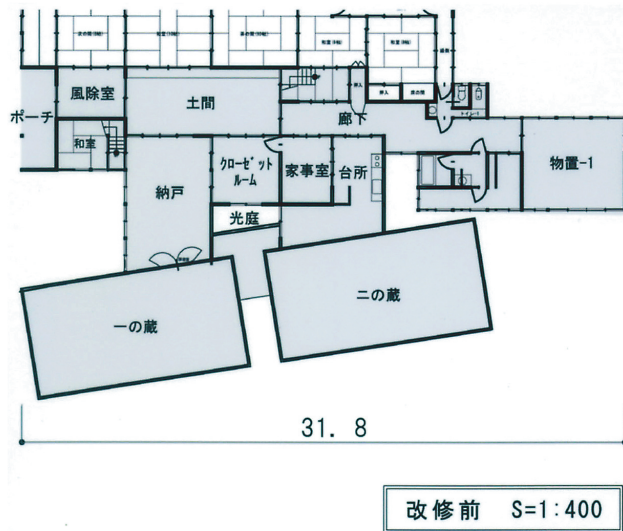
古民家ではあるけれども、温熱環境に配慮して、断熱性能を十分に高め、堅牢な構造躯体を生かしたオープンな間取りに努めました。



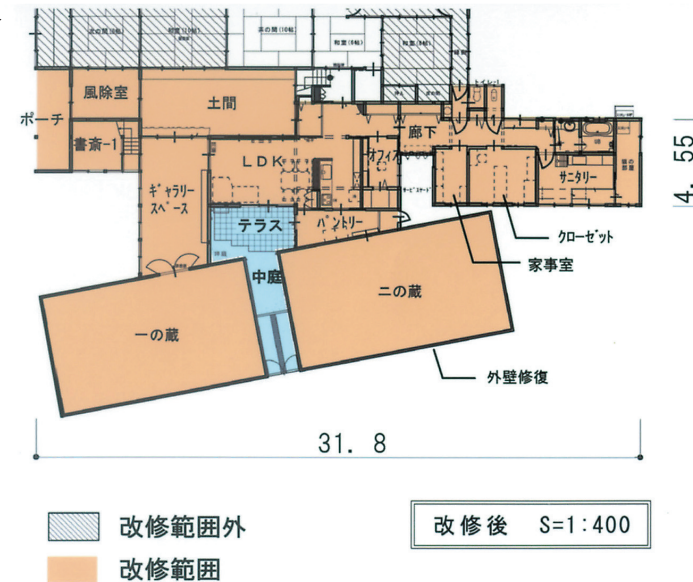
改修前中庭

A. 中庭を広げ開放的なテラスにした

<リフォーム前>



<リフォーム後>



リフォーム部位: 居室 台所 浴室 便所 洗面所 廊下 階段 玄関 エクステリア マンション共用部

この家は、口能登地方の町家様式と外観を、創建当時から100年近く保存している貴重な民家である。後に増築された2つの土蔵に遮られて主要な生活空間である土間、台所等は暗く、広大な広間も現代的な生活形態にそぐわず、「開かずの間」が多数であったという。

先年の能登半島地震では幸い構造的な被害は受けなかったものの、土壁のはがれや屋根瓦のずれ等、大部分を修復する必要が生じた。この修復をきっかけとし、伝統的な形式を保ちつつ、現代の快適な生活空間を実現した作品である。

外観については、象徴的な妻入り主屋、瓦葺きの板塀等を中心に、文化資産としての完全な修復を行っている。一方2つの土蔵部分は費用の関係上、化粧鋼板による簡易な修復になったが、主屋を意識したデザインがなされている。

構造体については、大断面の柱と梁による架構があらわしのため、地震被害の有無が確認しやすかったようで、必要な部分を適切に補強し、取り替えている。大半を占める土塗り壁には高性能な発泡系断熱材を外張りした他、窓をペアガラスサッシに取り替えるなどして、断熱性能を高めている。以前は冬場、部屋ごとに石油ストーブを焚いていたが、リフォーム後は要所に蓄熱暖房設備を配置して快適になった。ランニング費用も低減でき、施主は大いに満足している様子であった。

また、以前は劣悪な環境にあったが、リフォームにより利用価値が高まった空間が多いことにも驚かされる。たとえば暗かった土間は、ハイサイドライトや下家のトップライトを設けて光を取り込んだことにより、大材の漆塗りケヤキ梁としっくい壁で構成された架構が引き立てられ、訪れる人を驚嘆させる迎えの場となった。

日常の利用が最も多いにもかかわらず採光・通風条件が

悪かった台所、家事室には、土蔵の付属屋を除去して産み出したテラス空間から光と風、緑を取り込んだ。この都市的要素の強いテラスは、機能的でモダンな空間として創出されたLDKを、さらにアメニティに富んだホテルライクな空間に変えている。

土蔵の入口は家紋入りの重厚な土塗扉が自慢であったが、納戸の奥にあってお客様に見せることができなかった。今回の修復で、納戸をギャリースペースに改装できたので披露が叶い、読書やトレーニングにも活用できる施主の自慢の空間となった。

今まではまったく使われず閉め切った部屋が多かったのが、このリフォームによって全ての部屋が活用されるようになり、施主の「死んだ部屋がなくなった。全部生き返った」という言葉がたいへん印象的であった。

先々代から引き継いだ伝統的な能登民家に暮らし、震災被害に負けず、さらに現代的な居住性を創造し、住み続けながらその財産を維持していきたいとする施主の想いにまず敬意を表したい。またそれをより良いものにしようとする設計者や技術力の高い施工者の存在、三者の良好な関係がある。この作品は、(独)住宅金融支援機構理事長賞に相応しい内容である。

改修前蔵入り口(納戸)



蔵前室をギャリースペースに改修、蔵の扉をリニューアル